

令和4年度

事業報告

(実践報告・評価と改善の課題)



赤間保育園

目 次

保育活動

1 . 5 歳児	つき・ほし組	保育実践・評価と改善の課題	P 1 ~ P 4
2 . 4 歳児	そら・にじ組	保育実践・評価と改善の課題	P 5 ~ P 8
3 . 3 歳児	ゆき・はな組	保育実践・評価と改善の課題	P 9 ~ P 1 2
4 . 2 歳児	もも・あんず組	保育実践・評価と改善の課題	P 1 3 ~ P 1 6
5 . 1 歳児	さくらんぼ組	保育実践・評価と改善の課題	P 1 7 ~ P 2 1
6 . 0 歳児	さくらんぼ組	保育実践・評価と改善の課題	P 2 2 ~ P 2 5
7 .	園全体で行う行事	実施報告・評価と改善の課題	P 2 6 ~ P 3 1
8 .	食育	実施報告・評価と改善の課題	P 3 2 ~ P 3 5
9 .	健康・衛生	実施報告・評価と改善の課題	P 3 6 ~ P 3 8
1 0 .	災害・緊急時訓練	実施報告・評価と改善の課題	P 3 9 ~ P 4 0
1 1 .	リスクマネジメント	実施報告・評価と改善の課題	P 4 1 ~ P 4 3

令和 4 年度 障がい児保育事業

1 .	発達コーディネーター	実施報告・評価と改善の課題	P 4 4 ~ P 4 5
-----	------------	-------------------------	---------------

保育活動

1. 5歳児 つき・ほし組 保育実践・評価と改善の課題

《定期保育活動》

・誕生会（毎月1回） 保護者不参加

（4/22,5/27,6/24,7/29,8/18,9/30,10/28,11/17,12/15,1/27,2/24,3/9）

・毎週土曜日（異年齢保育）

4月	5月	6月
(13)毛筆 (21)毛筆 (28)毛筆	(12)毛筆 (13)お弁当の日 (19)毛筆 (26)毛筆	(16)毛筆 (23)毛筆 (29)いきいき出前コンサート
7月	8月	9月
(6)毛筆 (7)七夕 (14)毛筆 (21)おまつりごっこ		
10月	11月	12月
(27)お弁当の日	(2)芋ほり (5)わくわくキャンプ (6)わくわくキャンプ (8)ミツル&りょうた コンサート (22)勤労感謝訪問(宗像警察署)	(5)お茶のおけいこ (6)お茶のおけいこ (7)硬筆 (8)硬筆 (9)園長先生とのランチ会 (12)お茶のおけいこ (13)お茶のおけいこ (14)もちつきごっこ (15)お茶のおけいこ (19)硬筆 (22)硬筆 園長先生とのランチ会 (23)クリスマス会 (26)園長先生とのランチ会 (27)お茶のおけいこ (28)保育終了
1月	2月	3月
(4)保育始め (6)園長先生とのランチ会 (10)園長先生とのランチ会 (11)園長先生とのランチ会 (12)園長先生とのランチ会 (18)硬筆 (19)硬筆 (23)硬筆 (26)硬筆	(1)硬筆 (3)節分 (6)王丸デイキャンプ (7)お弁当の日 (8)王丸デイキャンプ (9)王丸デイキャンプ (10)お店屋さんごっこ (13)お店屋さんごっこ 園長先生とのランチ会 (20)硬筆 (21)交通安全教室 (28)卒園写真撮影	(2)お弁当の日 (3)ひな祭り (14)先生たちのお別れ会 (15)先生たちのお別れ会 (17)4歳児とお別れ会 (19)卒園式

1. 年間保育目標

- 1) 様々な遊びや活動に主体的に取り組み、運動能力や社会性を高める。(遊び)
- 2) 相手の話をよく聞く力や自分の経験したことや考えた事を言葉で伝える力を身に付ける。
(コミュニケーション)
- 3) 歌や合奏を通して、歌詞の意味や楽器の音色の違い等を感じながら音楽に親しむ。(音楽)
- 4) 様々な体験の中で知的好奇心を育み、生活や自然についての知識を身に付ける。(体験)
- 5) 食物を育てたり、体の関係性を知ったりする事で食の大切さに気付く。(食育)

2. 年間の振り返り(評価と改善の課題)

- 1) 様々な遊びや活動に主体的に取り組み、運動能力や社会性を高める。(遊び)

室内・戸外共に、玩具や遊具の使い方、遊び方などを、遊び始める前に繰り返し伝えた。子どもたちも約束事を理解し、自分で考えて行動したり、友だちに「それはだめだよ。」と伝えたりしながら、安全に玩具や遊具を正しく使うことが出来るようになった。

器械運動(鉄棒・縄跳びなど)は、一人ひとり個人差がある為、子どもたちの様子を見ながら、自分の決めた目標に向かって頑張れるよう個別に援助や声掛けや見守りを行った。繰り返し練習する中で、友だち同士で「ここはこうしたらいいよ。」とアドバイスをしあう姿もあった。中には、積極的に取り組みない子もいたが、保育者が声を掛けることで、自分から挑戦しようとする姿が少しずつ見られるようになった。また、正月遊びでは、こま作りや福笑い等友だちとルールのある遊びを楽しむ姿が多く見られた。



- 2) 相手の話をよく聞く力や自分の経験したことや考えた事を言葉で伝える力を身に付ける。

(コミュニケーション)

『話を静かに聞く』という事について、繰り返し伝えてきた。特に、“先生や友だちが前に立ったら、まず静かにし、椅子の向きを変え、前をしっかりと向いて聞く”という、聞く姿勢について、必要に応じて話を行った。子どもたちが自ら気づき静かにする姿は、4月に比べると多く見られるようになった。中には、まだ自分のやりたい事を優先してしまい周りが見えていなかったり、自ら静かに待つ姿勢や聞く姿勢を作ることが難しかったりする姿もあった。就学に向けて『話を静かに聞く』姿勢を自ら作ることの大切さを伝える事を次年度の5歳児クラス担任に繋げる。

また、「自分の体験したことや、その時の気持ちを伝える」と言う事では、生活発表で、「いつ」「どこで」「だれと」「何をして」「どんな気持ちだったか」という五つの要素を考えながら発表する時間を作った。他には、約束はなぜ守らなければならないのかについて、自分の思っていることを発表したり、友だちに嫌なことをされた際、自分も同じことをされたらどんな気持ちになるかについて考え、自分の思ったことを友だちに伝えたりするなど、適宜時間を作った。話す機会を作ることで、自分の体験や意見など自信を持って人前で話す姿が見られるようになってきた。中には、緊張してしまい声が小さくなってしまったり、上手く言えなかったりする子もいたが、短い言葉で伝えるということではできるようになったと感じる。

キャンプや劇ごっこ等の活動では、グループに分かれて、話し合いを行う時間を作った。グループ活動を通して、自分の気持ちや考えを相手に伝えたり、相手の気持ちに耳を傾けたりする経験を重ねることができた。

「給食の放送当番」活動では、その日の給食のメニューを発表することを通して、人に聞いてもらう嬉しさや「上手にできたね」と褒めてもらうことにより達成感を感じ、人前で話す自信に繋げることが出来た。



3) 歌や合奏を通して、歌詞の意味や楽器の音色の違い等を感じながら音楽に親しむ。(音楽)

室内に歌詞カードを貼ることで、子どもたちがいつでも自分たちで歌詞を見て覚えられるようにした。歌詞を覚えることで自信を持って歌う姿が見られた。歌い方については、姿勢、声の強弱、歌詞に込められた言葉の意味なども子どもたちに問いかけ、一緒に考えながら伝えていった。

合奏では、フレンドリーコンサートで「威風堂々」を演奏し、自分の楽器以外の音も聴きながら、心一つにして、綺麗に演奏することを繰り返し伝えた。自分の楽器を上手く演奏できるようになると嬉しそうな表情が見られた。楽器の演奏を通して、奏でる楽しさや色々な楽器と音を合わせる楽しさを感じているようだった。ハーモニカの練習では、「第九」の楽譜を自分で見ながら練習に取り組む姿が見られた。吹けるようになった子が、友だちに吹き方を教えてくれる姿が増え、友だちと協力しながら練習に取り組む事ができていた。



4) 様々な体験の中で、知的好奇心を育み、生活や自然についての知識を身に付ける。(体験)

年長児クラスとしてキャンプ・芋ほり・勤労感謝訪問などを通して、地域の方との交流や自然への関わり方を知り、感謝の気持ちを持って自主的に活動に参加できるようにした。静の時間の一環として、毛筆や硬筆、お茶会も行った。集中して取り組むことで、心を落ち着かせて静かに過ごすことが出来るようになった。日本の伝統文化や季節ならではの遊び(柚子湯・雪遊び等)も経験する事が出来た。

また、毎日の生活の中で、掃除や片づけの仕方(箒の持ち方・椅子の上げ下ろし・机の運び方など)を伝え、見守りを行った。そうすることで、子どもたちが自主的に取り組む姿が見られるようになってきた。また、子どもたち同士で教え合うことができるようにもなった。



5) 食物を育てたり、体の関係性を知ったりする事で食の大切さに気付く。(食育)

食べるときのマナーについて、静かに、姿勢よく、食べ物やそれを作った人たちへの感謝の気持ちを持って食べることを伝えてきた。また友だちと話す声の大きさなども伝えた。

食事時間は、“ごちそうさま”までに食べ終わるようにその日のメニューや苦手なものなどがある場合は、事前に減らして食べ終わった達成感を味わえるよう配慮をした。

また、給食の放送をよく聞く事で、季節の食べ物や食材に対しての興味・関心を深め、食材が体にどのように働きかけているかなど知識としても考えられるようになった。放送が行われている際、耳を傾けて静かに聞く事が難しい姿もあった為、その都度声を掛けながら、聞き方についても伝えてきた。

おやつや給食のメニューに応じて、食育の一環として、とうもろこしの皮むきや枝豆の鞘取り等も経験した。夏野菜においては、計画が間に合わず、育てることができなかった。給食室と連携しながら、事前に計画を立て進める事が出来るようにしていく必要があった。



3. 一年間の総合的な振り返り

『人の話を静かに聞く』という事を、4月から意識して取り組んできた。子どもたちには、なぜ静かにしなければいけないのかについても繰り返し伝えてきた。友だちとの関わりも増え、一緒に遊んだり、会話したりする事を楽しむ姿が多い子どもたちだが、保育者や友だちが前に立って話をしている時に、隣の友だちと話をする事や聞きそびれてしまう事や、話し掛けたことによりその友だちが話を聞きそびれてしまい話している内容が分からなくなってしまう事などを、詳しく話した。繰り返し伝えていく事で、隣の友だちが「先生が前に立ったから、静かにするよ」「前向くよ」と、声をかけ合う姿が見られたり、自分自身で気づいて話を聞く姿勢をとったりする姿が見られるようになってきた。その反面、自ら気付いて、行動に移す事が難しい子どもたちもいたが、保育者や友だちが声を掛ける事で“聞く姿勢”を作ることができた。

また、人前で話をする際、恥ずかしかったり、緊張したりすることで、声が小さくなる子もいたが、皆の前で話す経験を作り、少しずつ自信を持てるようにした。人前で発表する機会を作り、より自信を持って発表できるような機会を作る事が5歳児クラスでは必要だと考える。

日々の身の回りの整理整頓・掃除では、進んで掃除する子が増え、遊んだ玩具をきれいに片づける事を頑張る姿も見られた。小さな事に自ら気づき「ここ手伝うよ。」と率先して手伝いをしようとする姿に成長を感じた。身の回りの整理整頓では、自ら綺麗にする姿が増えてきたが、使ったものを個人の道具箱に詰め込んだり、棚の中に押し込んだりする姿も見られた。道具箱を定期的に確認しながら綺麗にするということの大切さを伝える事が必要である。また、帽子などの忘れ物も見られた。次年度でも小学生になったら自分で準備することが増える為、自分で準備する大切さも合わせて伝えてほしい。

2. 4歳児 そら・にじ組 保育実践・評価と改善の課題

《定期保育活動》

・誕生会（毎月1回） 保護者不参加

（4/22,5/27,6/24,7/29,8/18,9/30,10/28,11/17,12/15,1/27,2/24,3/9）

・毎週土曜日（異年齢保育）

4月	5月 (13) お弁当の日	6月 (29) いきいき出前コンサート
7月 (7) 七夕 (21) おまつりごっこ	8月	9月
10月 (27) お弁当の日	11月 (2) 芋ほり (8) ミツル&りょうた コンサート	12月 (1) 勤労感謝訪問 (西鉄バス営業所・郵便局・ 神山写真館) (2) 勤労感謝訪問 (宗像消防署赤間出張所) (6) 勤労感謝訪問 (JR教育大前駅・教育大前交番・ 福岡県信用組合) (7) 毛筆 (8) 毛筆 (14) もちつきごっこ (19) 毛筆 (22) 毛筆 (23) クリスマス会 (28) 保育終了
1月 (4) 保育始め (18) 毛筆 (19) 毛筆 (23) 毛筆 (26) 毛筆	2月 (1) 毛筆 (3) 節分 (7) お弁当の日 (10) お店屋さんごっこ (13) お店屋さんごっこ (20) 毛筆	3月 (2) お弁当の日 (3) ひな祭り (17) 5歳児とのお別れ会

1. 年間保育目標

- 1) 様々な遊びの面白さに触れ、自ら積極的（主体的）に取り組む。（遊び）
- 2) 自分の気持ちを言葉で相手に伝えると共に、相手の気持ちに気付く。（コミュニケーション）
- 3) 日常生活の中で音楽に親しみ、歌や合奏する事で表現力を養う。（音楽）
- 4) 生活体験や自然体験で身近な事象に関心を持ち、自然の不思議さに気付く。（体験）
- 5) 食物を育てたり、体の関係性を知ったりする事で食の大切さに気付く。（食育）

2. 年間保育目標の振り返り（評価と改善の課題）

1) 様々な遊びの面白さに触れ、自ら積極的（主体的）に取り組む。 遊び

戸外遊びでは、雲梯や太鼓橋、汽車などの遊び慣れた固定遊具を自由に楽しむ姿が多く見られた。鉄棒の時間を取り入れると、『前回り』や『地球回り』、『足かけ回り』などに挑戦する子がふえた。失敗したり、回ったりすることを怖がる子もいたが、友だちと一緒に何度も挑戦し、少しずつ習得していく姿があった。また、『氷おに』や『けいどろ』、『転がしドッチボール』など、ルールのある遊びも取り入れた。『だるまさんがころんだ』では、静と動の動きを楽しむことができた。他にも長縄を使った縄跳びも行った。引っ掛かっても諦めずに何度も繰り返し挑戦する姿が見られた。

室内では、粘土やお絵描き、カラフルブロック・ラキュー・フラワーブロックといったブロック遊び、折り紙や塗り絵、わらべうた遊びを行った。それぞれの遊びを通して、友だち同士で作り方を教え合ったり、ルールを守って遊んだりする姿に子どもたちの成長を感じた。しかし、中には正しい遊びをせず、ケガをするようなこともあった。戸外でも室内でも遊ぶ際には事前に遊び方、玩具の使い方を子どもたちと確認をしてから遊ぶ事が必要であると感じた。

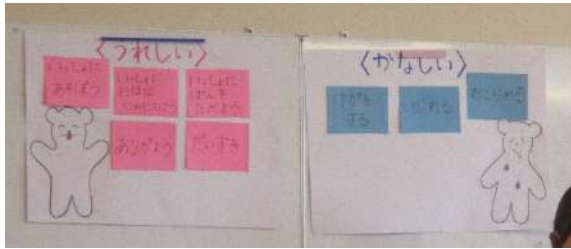


2) 自分の気持ちを言葉で相手に伝えると共に、相手の気持ちに気付く。（コミュニケーション）

自分から友だちを遊びに誘ったり、遊びに入れて欲しい時や玩具を貸して欲しい時、「入れて」「いいよ。」と言える事ができるようになった。また、困っている友だちや、涙を流している友だちを見つけると「どうしたの?」と優しく声を掛ける姿も多く見られた。

生活発表にも取り組み、『いつ』『どこで』『だれと』『何をしたのか』『どう感じたのか』ということ、自分の言葉で発表する姿があった。

日々の生活の中で、友だちとぶつかり合うこともあったが、その都度、互いの気持ちを聞き、時には保育者が代弁しながら、相手がどういう気持ちになるのか、人には違う考えもあることや、“誰かの体も、こころも傷つけてはいけない。”という事も伝えた。また、『うれしいさん・かなしいさん』という絵本を使い、温かい気持ちになれる言葉とそうではない言葉をクラスで考える時間を作った。『かなしいさん』では、“いじわる”、“おこられる”、“怪我をすること”などが出た。『うれしいさん』では、“ありがとう”、“だいすき”、“一緒にあそぼう”など、たくさんの言葉があがった。“かなしいさん”を“うれしいさん”に変えるためにはどうすればいいかな?という事も一緒に考えた。この事は、部屋にも掲示し、その都度いつでも確認できるようにした。自分の思いを伝えることが苦手な子にも、「(自分の気持ちを話して)大丈夫だよ。」と声を掛け、安心して発言できる場を作り、自分の言葉にできるよう援助を行った。



3) 日常生活の中で音楽に親しみ、歌や合奏する事で表現力を養う。音楽

フレンドリーコンサートでは、鍵盤ハーモニカで『第九』を合奏し、『ありがとうの花』、『ともだちになるために(手話付)』を合唱した。鍵盤ハーモニカの練習では、演奏を始める前に音階を歌って覚えたり、運指を練習したりすることから始めた。練習を重ねていく度に、吹けるところが増えていくことの喜びを子どもたちは感じていた。また、得意な子が積極的に練習を始め、友だちにも教える姿も見られた。合唱は、丁寧に綺麗な声で歌うことや聴いている人が、嬉しくて楽しい気持ちになってくれるように歌うことなどを伝えた。歌詞の意味や歌う時の気持ちなども伝えて、楽しくのびのびと歌うことができた。

遊戯会では、オペレッタ『おしゃべりなたまごやき』、遊戯『ソイヤ! ~令和の響き~』、『OLA!!』、『アンダー・ザ・シー』を披露しました。子ども達からのアイデアを取り入れながら動きを一緒に考えたり、踊ったりする事で、表現することを楽しみながら練習を行うことができた。



4) 生活体験や自然体験で身近な事象に関心を持ち、自然の不思議さに気付く。体験

5歳児と共に園の近くにある畑でサツマイモの苗を植え、世話をを行った。水やりにも行き、生長したサツマイモを掘る事ができた。植えた時よりも大きく茂ったさつまいもの葉を見て、歓喜の声が上がっていた。また、アサガオとひまわりの種をプランターに蒔き、水をあげたり、育っていく様子を観察したりした。時には、子どもが登園中に拾った落ち葉を図鑑に挟み、押し花を作って、葉っぱがどう変化するのか実際に見ることも行った。

生活体験の一つとして、毎月の訓練の際には、災害時や緊急時にどう行動するのかをしっかりと話してきた。地震の際、何故頭を守らなければいけないのか、不審者が来た時、何故静かに隠れなければいけないのかなど、具体的に伝えた。また、園外に出た時には交通ルールを守るよう事前に伝えて、実際に横断歩道などを渡って確認を行った。

10月からは書道の先生に来て頂き、毛筆に取り組んだ。丁寧な道具の使い方、先生の話静静地に聞くこと、姿勢を保持すること、正しい順序で文字を書くことなどを教えて頂き、子どもたちも真剣に取り組む姿が見られた。



5) 食物を育てたり、体の関係性を知ったりする事で食の大切さに気付く。 食育

食事面では、座り方、皿の持ち方、箸の使い方などを確認することで、食事のマナーを伝えた。友だちと大きな声で話してしまったり、食事の進みが遅かったりする事もあったが、その都度声を掛ける事で、静かに食事をして、姿勢良く食べることができていた。また、食べものへの感謝、作ってくれた人へ感謝の気持ちを伝え、「いただきます。」「ごちそうさまでした。」の挨拶を徹底した。しかし、箸を持ったまま後ろや横を向いたり、食事中に離席をしたり、口の中に食べ物が入っているのに話をしたりする姿が見られることがあり、食事のマナーについて具体的に分かりやすく伝えていく必要があると感じた。



3. 一年間の総合的な振り返り

3歳児の時に身に付けた生活習慣を、保育者に言われなくても自分で進んで行うことができるように、時には援助しながら見守ってきた。また、人の話は最後まで静かに聞く、ということも常々子どもたちに伝えてきた。友だちとのお喋りに夢中になってしまう姿もあったが、保育者が何も言わなくても周りを見て気付き、行動することや、友だち同士で声を掛け合う姿も少しずつ増えた。

遊んでいる姿を見ていると、クラス全体で遊ぶこともあれば、仲の良い友だちを自分の拠り所として遊ぶ様子もあった。時には、トラブルになった時に手が出てしまうこともあった。その都度、「言葉で伝えよう。」「人を傷つけてはいけない。」「自分とは違う考えの人もあるんだよ。」ということや、個々でも、クラスでも伝えてはきたが、十分理解するには時間を要するようになった。さまざまな友だちとの関わりを深めながら、相手の気持ちを受け止めたり、自分の気持ちに折り合いを付けたりすることや、自分の気持ちを伝えることができるようになってほしいと考える。

身の回りの事などを5歳児に手伝ってもらったりすることもあった。5歳児の姿を見て刺激を受け、3歳児の手伝いを頑張る子もおり、成長を感じる部分もあった。5歳児への進級に子どもたちも期待感を高めているが、人の話を聞くこと、友だちとの関わり方、言葉の使い方等、課題は見られる。次年度クラスへ個々やクラス全体の状況を具体的に伝え、課題が一つでも改善できるよう、取り組むことが必要であると感じる。

3. 3歳児 ゆき・はな組 保育実践・評価と改善の課題

《定期保育活動》

・誕生会（毎月1回） 保護者不参加

（4/22,5/27,6/24,7/29,8/18,9/30,10/28,11/17,12/15,1/27,2/24,3/9）

・毎週土曜日（異年齢保育）

4月	5月 (13) お弁当の日	6月 (29) いきいき出前コンサート
7月 (7) 七夕 (21) おまつりごっこ	8月	9月
10月 (27) お弁当の日	11月 (4) 勤労感謝訪問 (鴨川医院・赤間コミセン・ シルバー人材センター) (8) ミツル&りょうた コンサート (10) 勤労感謝訪問	12月 (14) もちつきごっこ (23) クリスマス会 (28) 保育終了
1月 (4) 保育始め	2月 (3) 節分 (7) お弁当の日 (10) お店屋さんごっこ (13) お店屋さんごっこ (28) 園外散歩 (赤間コミセン)	3月 (1) 園外散歩 (赤間コミセン) (2) お弁当の日 園外散歩 (赤間コミセン) (3) ひな祭り

1. 年間保育目標

- 1) 様々な遊びを通して、友だちと一緒に遊びを展開させることを楽しむ。(遊び)
- 2) 自分の気持ちを言葉で表現する事で、保育者や友だちとの関わりを深める。(コミュニケーション)
- 3) 音楽を通して、歌う事や楽器・ダンスなどで表現する事の楽しさを十分に感じる。(音楽)
- 4) 基本的な生活の流れを身に付け、自ら行動する。(体験)
- 5) 食事のマナーを知り、正しい姿勢で楽しく食事する。(食育)

2. 年間保育目標の振り返り(評価と改善の課題)

1) 様々な遊びを通して、友だちと一緒に遊びを展開させることを楽しむ。(遊び)

晴天時は園庭に出て、雨天時はホールや保育室の中で子どもたちが楽しめる遊びや活動を行った。園庭では、友だち同士でかけっこを楽しんだり、遊具に登ったり、鬼ごっこを楽しんだりする姿が見られた。室内では友だちと一緒にブロック遊びを行い、協力して大きな形を作ったり、友だちと同じものを作って見せ合ったりする姿が見られた。パズルや粘土遊びも好み、想像力や創造力を深める事ができたのではないかと思う。

ホールでは、体操やリズム遊び、ボール遊び等を行い、体を動かすだけでなく、音楽に合わせて体をリズムカルに動かしたり、友だちと速さを競ったりすることも楽しむことができた。



2) 自分の気持ちを言葉で表現する事で、保育者や友だちとの関わりを深める。(コミュニケーション)

共に生活し、遊ぶことで子どもたち同士の関わりも深まり、“仲良しの友だち”ができた。そして、仲良しの友だちを中心に少人数の集団ができ、一緒に遊ぶ姿がよく見られるようになった。子どもたちの語彙数も成長に合わせて増え、話す事が上手になってきたのではないかと感じる。また、困っている友だちがいると、「どうしたの?」「大丈夫?」と声を掛ける優しい場面を見かけた。しかし、トラブルになると言葉よりも叩く・ひっかく・押す・蹴るなどの行為が先に出てしまったり、言葉で相手の子の“心”を傷つけたりする事が見られた。その都度、トラブルになった子どもたちや全体に向けて正しい言葉で気持ちを伝える事を促してきたが、次年度でも引き続き子どもたちが理解できるよう繰り返し伝える事が必要である。



3) 音楽を通して、歌う事や楽器・ダンスなどで表現する事の楽しさを十分に感じる。(音楽)

季節の歌や子どもたちが好きな歌など様々な歌を日々の中で歌った。子どもたちも歌う事を喜び、元気に歌う姿が見られた。時に、歌詞の一部分だけ声が必要以上に大きくなることもあったので、歌詞の意味や歌う時の声の大きさなどを丁寧に伝え、気持ちを込めて歌う事の大切さを次年度でも伝える必要がある。

フレンドリーコンサートではハンドベルに挑戦した。順番に音を繋げて演奏することは難しかったが、自分の音と周りの友だちの音を覚え、ステージの上で緊張しながらも頑張って演奏することができたのではないかと感じる。

遊戯会では、遊戯とオペレッタに分かれて演じた。どちらも友だちと一緒に表現する事を楽しむ姿があり、ステージ上で楽しく表現できたことは子どもたちにとって自信に繋がった。



4) 基本的な生活の流れを身に付け、自ら行動する。(体験)

子どもたちの成長に合わせて、“自分でできる事は自分でする”を促してきた。初めの頃は、箸包みや身の回りの片づけなどが一人で行う事が難しく、保育者が手伝う事が多かった。一緒に取り組むことで徐々にできる事が増えると、「先生、できたよ。」と嬉しそうに教える姿が見られた。また、自分の事だけでなく保育室のごみ拾いや椅子運びを行ったり、昼寝用のベッドや布団を出したり片づけたりと、クラスの事にも進んで行おうとする姿が見られた。



5) 食事のマナーを知り、正しい姿勢で楽しく食事する。(食育)

食事の際の姿勢や、食器・フォーク(箸)の正しい持ち方や、“食事の姿勢も両足を下ろして食事をする。”“食器を持って食事をする。”など食事のマナーについても日々伝えてきた。また、給食の先生

から食育について話を聞く時間もあり、手洗いの仕方や食べ物と自分の体との関係などを教えてもらった。給食時には5歳児による給食の放送もありその中でその日の食材に関する話を聞くことで食に関する興味・関心が出てきたと感じる。

また、給食時はトレーを使用し、自分に合った量を選んで取り分けるようにした。苦手な物がある子どもたちも量の少ない物を選んだり、「少なくしてください。」と自分で言ったりすることで量の調節を行い、完食することができるようになった。



3. 1年間の総合的な振り返り

2歳児で身に付けた生活習慣を、更に自分で行うことができるように、時には援助をしながら時には見守りながら取り組んできた。自分でできることが増えると、意欲が高まり、保育者の行うことにも興味を示し、「先生のお手伝いする。」と言って、自ら行動する姿が見られるようになった。

コミュニケーションの面では、話が上手になる一方で友だちとトラブルになると先に手が出てしまったり、友だちが傷つく言葉を言ったりする姿が見られた。その都度、個別や全体に伝えながら友だちとの関わり方を子どもたちと確認していくことが次年度でも必要である。

3歳以上児クラスへ進級し、1年間を通して4・5歳児がほうきを使って掃除をしたり、机や椅子を運んだり、園庭で遊具や大縄等を出して遊んだりしている姿を見て、真似をしようとするなど、年上の子の姿から刺激をもらい、子どもたちは成長してきた。4歳児クラスへ進級することに子どもたちも期待感が高まっていた。子どもたちと遊びながら、必要な事は子どもたちに分かりやすく伝え、時には一緒に考えながら、過ごしてほしいと考える。

4. 2歳児 もも・あんず組 保育実践・評価と改善の課題

《定期保育活動》

・誕生会（毎月1回） 保護者不参加

（4/22,5/27,6/24,7/29,8/18,9/30,10/28,11/17,12/15,1/27,2/24,3/9）

・毎週土曜日（異年齢保育）

4月	5月 (13) お弁当の日	6月
7月 (7) 七夕 (21) おまつりごっこ	8月	9月
10月 (27) お弁当の日	11月 (8) ミツル&りょうた コンサート (18) 園外散歩 (城山中学校) (25) 園外散歩 (城山中学校)	12月 (14) もちつきごっこ (23) クリスマス会 (28) 保育終了
1月 (4) 保育始め	2月 (3) 節分 (7) お弁当の日 (10) お店屋さんごっこ	3月 (2) お弁当の日 (3) ひな祭り

1. 年間保育目標

- 1) 保育者の見守りの中、友だちと一緒に遊ぶことを楽しむ。(遊び)
- 2) 言葉のやり取りを楽しみ、自分の思いや感情を表現する。(コミュニケーション)
- 3) 音楽に合わせて歌ったり、表現(楽器)したり、体を動かしたりすることを楽しむ。(音楽)
- 4) 身の回りのこと(食事・排泄・着脱など)に興味を持ち、自分でしようとする。(体験)
- 5) 食生活に必要な習慣やマナーを知り、楽しく食べる。(食育)

2. 年間保育目標の振り返り(評価と改善の課題)

1) 保育者の見守りの中、友だちと一緒に遊ぶことを楽しむ。(遊び)

初めは、新しい環境に慣れず涙が出ていた子もいたが、好きな遊びを見つけたり、保育者や友だちと一緒に遊んだりすることを通して、少しずつ笑顔が見られるようになった。また、自ら友だちに「一緒に遊ぼう」と声をかけ、楽しく遊ぶ姿が見られた。友だちが作っているものに興味を持ち、ブロックで同じものを作ったり、好きなものに見立てたりして、友だちと一緒に何かを作る事もできた。

少人数で遊ぶ事から、集団でしっぽ取りなど簡単なルールのある遊びにも取り組んだ。引き続き、ハンカチ落とし・フルーツバスケットといったルールのある遊びを保育者や友だちと一緒に取り組むように次年度クラスへ引き継ぐ。

戸外遊びでは、汽車の遊具やすべり台で遊ぶ姿が多かったが、成長に伴い、うんていや鉄棒、登り棒等の遊具に挑戦する姿が見られ、体を動かすことを楽しむ姿が見られた。遊具だけでなく、鬼ごっこやしっぽ取りを楽しむ姿もあった。砂場では玩具を使い「ごはん作った」と保育者に見せたり、友だちと「お山を作ろう」と誘い合って作っていたり、関わりを持ちながら遊ぶ姿が見られた。また、戸外だけでなく、三階のホールでボール遊びや、鉄棒、マットなどの運動遊び、リズム遊びなどの身体を使った遊びも行った。



2) 言葉のやりとりを楽しみ、自分の思いや感情を表現する。(コミュニケーション)

気の合う友だちが見つかり、一緒に遊ぶ姿が見られた。その中で、場所や玩具の取り合いで言葉よりも先に手や足が出てトラブルにつながることもあるが、保育者が仲立ちをすることで相手の気持ちに少しずつ気付けるようになった。また、自分の気持ちも相手に伝えることも少しずつではあるが、できるようになった。

3歳児との異年齢活動を通して、箸を使って給食を食べる、ハンカチを使ってお包みをする、うがいをする様子を見たり、ゴミ拾いを真似て一緒に行ったりと進級に向けての楽しみが芽生えてきている。

3月に入り、保護者にフォークセットを包むためのハンカチを準備して頂くようお願いをし、練習を行った。



3) 音楽に合わせて歌ったり、表現(楽器)したり、体を動かしたりすることを楽しむ。(音楽)

季節の歌や童謡を毎日歌うことで、歌に親しみ、遊びや生活の中でも歌を口ずさむ姿が見られた。朝のおやつや午後のおやつ後に歌の時間を設け、朝の歌・お帰りの歌に合わせて季節の歌や童謡を歌った。繰り返し歌うことで子どもたちから「の歌うたいたい」とリクエストがあがるようになり、立って歌うことや、並んで歌う事にも慣れてきた。また、合奏では、鈴、カスタネット、タンブリン、等の楽器に挑戦した。簡単なリズム遊びから始め、楽器の持ち方やならし方、お胸抱っこの仕方を練習し、できるようになってきた。3歳児に見せてもらったハンドベルにも挑戦し、鳴らすことを楽しむ姿もあった。



4) 身の回りのこと(食事・排泄・着脱など)に興味をもち、自分でしようとする。(体験)

衣服の着脱や荷物や食器の片付けなど、自分でやろうと意欲を見せていた。また、できると嬉しそうに保育者に伝える姿があった。

トイレトレーニングにも取り組み、子どもたちの多くがパンツで過ごす時間が増えた。また、排泄の時にズボンやパンツを全部脱がずに排泄できる子、男児は立って排泄ができる子の姿が増えた。

給食後に脱いだ洋服の表返しをしたり、自分たちのフォークセットを鞆の中に入れてたり、子どもたちの成長に合わせて取り組みを増やし、取り組んできた。年間を通して身の回りの事を一緒に取り組む事で、多くの子どもたちが自分でできるようになり、保育者も援助する事よりも見守る事が多くなったと感じている。

今後も「自分でやりたい」という気持ちを大切に、自信をつけて意欲につなげられるよう声掛けや見守りを次年度クラスでも行うよう、繋げる。



5) 食生活に必要な習慣やマナーを知り、楽しく食べる。(食育)

食事をする中で、フォークの持ち方を保育者や周りの友だちと確認する姿が見られた。成長に伴い、食べこぼしも減り、洋服を汚すことが少なくなった。その為、食後に新しく洋服を着替える事もなくなった。また、食後の食べ残した食器を自分たちで片付けることも行った。また、食膳の手洗いも保育者の促しにより石鹸を使って丁寧に洗おうとする姿も見られた。

子どもたちは食べる事を喜び、おかわりもしていたが、中には苦手な食べ物があり、食事が進まない子もいた。保育者が側に付き、励ましたり援助したりする事で、1口でも食べる事ができるようになった。また、友だちがおかわりをしている様子を見て食べようとする意欲が沸くなど楽しい雰囲気の中で食事をとることができた。食事の量や進み加減は個人差があるので、次年度クラスへ個々の引継ぎを行う際に、一人ひとりの食事状況についても伝える。

また、進級に向けて遊びの中で箸の練習を取り入れた。箸を使う事はまだ難しいが、次年度でも同様の取り組みを行い、箸の移行が進められるようにする。



3. 1年間の総合的な振り返り

基本的な生活習慣の自立をめざし、子どもたちの「自分でしたい」という気持ちを大切にしてきた。難しかったことができるようになった時にはたくさん褒め、自信に繋げることで、様々な活動にも意欲的に参加する姿が見られた。

今年度から、自分たちの道具(のり・クレパスなど)を使って遊んだり制作を行ったりした。制作でははさみの使用にも取り組んだ。回数を重ねる度に持ち方や動かし方が上手になってきた。また、のりの使い方も人差し指に少しつけることを伝えると「こうよね」と確認しながら指先にのりをつける姿があった。粘土やお絵描きも子どもたちから「したい」という声があがり、遊ぶこともあった。それぞれの道具については、その都度使い方を伝えてはきたが、今後も大切に扱う事を伝える事が必要である。

友だち同士の関わりが増えた中で、玩具や場所の取り合いなどで噛みつきや引っ掻きなどのトラブルが起きることもあったが、保育者を通じて、少しずつ言葉を通して相手に気持ちを伝えられるようになってきた。引き続き、保育者が仲立ちをする事は必要であるので、友だちとの関わり方について話をしたり、友だちの気持ちにも気付けるように声をかけたりする事が必要である。

5. 1歳児 さくらんぼ組 保育実践・評価と改善の課題

《定期保育活動》

・誕生会（毎月1回） 保護者不参加

（4/22,5/27,6/24,7/29,8/18,9/30,10/28,11/17,12/15,1/27,2/24,3/9）

・毎週土曜日（異年齢保育）

4月	5月 (13) お弁当の日	6月
7月 (7) 七夕 (21) おまつりごっこ	8月	9月
10月 (27) お弁当の日	11月 (8) ミツル&りょうた コンサート	12月 (14) もちつきごっこ (23) クリスマス会 (28) 保育終了
1月 (4) 保育始め	2月 (3) 節分 (7) お弁当の日 (10) お店屋さんごっこ	3月 (2) お弁当の日 (3) ひな祭り

1. 年間保育目標

- 1) 様々な事に興味・関心を持ち、自ら遊びを楽しむ。(遊び)
- 2) 自分の要求や気持ちを身振りや言葉で伝え、やりとりする楽しさを知る。(コミュニケーション)
- 3) 歌や音に親しみ、表現する楽しさを味わう。(音楽)
- 4) 身の回りのことに興味を持ち、自分でやってみようとする。(体験)
- 5) 自分でしっかり食べると共に、食事マナーを知る。(食育)
- 6) 保育者との信頼関係の中で、見守られながら、安心して過ごす。 < 養護 >

2. 年間保育目標の振り返り(評価と改善の課題)

1) 様々な事に興味・関心を持ち、自ら遊びを楽しむ。(遊び)

天気の良い日は園庭に出て、固定遊具や砂場等で自分の好きな遊びを楽しんだり、保育者と一緒かけっこをしたりしながら過ごした。はじめは固定遊具(特にすべり台)で遊ぶ子が多かったが、次第に砂場への興味が高まり、砂場用の玩具を使って保育者や友だちとままごと遊びを楽しむ姿が見られた。体の機能が発達すると鉄棒や太鼓橋・うんていに興味を示し、挑戦する子もいた。

また、室内では運動遊び(マットや鉄棒等)、感触遊び(小麦粉粘土や片栗粉粘土)、指先遊び(スプーン遊びやひも通し)等の保育活動を行った。運動遊びは保育室だけでなく、3階ホールを積極的に使用する事により、階段の昇り降りが上手になった。また、平均台や鉄棒を使う事により体幹が鍛えられ、中には鉄棒で足抜き回りができる子もいた。



2) 自分の要求や気持ちを身振りや言葉で伝え、やりとりする楽しさを知る。(コミュニケーション)

子どもたちが保育者や環境に慣れ、安心して過ごす事ができるように保育者からのコミュニケーション・スキンシップを心掛けた。日頃から生活や遊びを通して声掛けをたくさん行ったり、気持ちをその都度汲み取ったりする事で登園時に涙を流していた子も自分から保育者の元へ行ってスキンシップを行う姿が見られ、その姿に安心したという保護者もいた。

子どもたちは自分の要求を身振りや手振りで表現する事から始まり、簡単な言葉のやり取りをする事で一語文から二語文を少しずつ話すことができるようになった。また、気の合う友だちができるようになると、給食時に同じテーブル席に座り「おいしいね。」と互いに言い合うなど子ども同士での言葉のやり取りを楽しむ姿が見られた。一方で玩具や場所の取り合いになると自分の思いを言葉で上手く表現する事が難しく、噛みつきや引っ掻き等、手や口が出てしまう事があった。その際は、身振りで伝える事や、言葉が話せる子どもには「貸して」と言うことを繰り返し伝えてきた。また、子どもたちが安心して自分の好きな遊びを楽しめる環境について担任間で話し合いを行い、実践してきた。結果、徐々にではあるが噛む・引っ掻く等の行為は減少した。改めて繰り返し伝える事と環境構成について考え実践する事の重要性を感じた。



3) 歌や音に親しみ、表現する楽しさを味わう。(音楽)

日々の保育の中で季節の歌や童謡等を歌っていく事で、子どもたちは覚えた歌詞を大きな声で楽しそうに歌う姿や遊んでいる際に友だちと口ずさむ姿も見られた。また、踊る事も大好きな子どもたちは、知っているダンスの曲が流れ始めると、喜んで踊る姿が見られ、歌遊びでも保育者や友だちと手を繋いだり、“ギュッ”とハグをしたりして一緒に楽しむ事もできた。

子どもたちは、楽器にも興味を示し、ピアノの伴奏に合わせてタンブリンや鈴を鳴らす事を楽しむ姿が見られた。その際に、楽器の持ち方や鳴らし方を分かりやすく伝える事で、上手に持って鳴らす事もできるようになった。

一方で、月間カリキュラムにその月に歌う曲名をきちんと記載をしていなかった。その為、日によって歌う曲が異なった事もあったので、計画の段階から決めておくべきであった。



4) 身の回りのことに興味を持ち、自分でやってみようとする。(体験)

【排泄】

尿が出なくても便座に座る時間を大切にしてきた。日々の習慣として子どもたちも身に付き、ズボン・オムツを脱ぐと、自ら便座に座る事ができていた。タイミングが合うと排尿できる子もおり、保護者と話してパンツに移行し、短い時間からパンツで過ごす事を行ってきた。自我が成長するに伴い、トイレに誘っても「イヤ」といく事を拒否する子も増えた。無理に誘わず、「おもちゃ、守ってるからね。」「もうすぐ、給食(お迎え)だよ。」と声を掛ける等、子どもたちが自分で行くように促す事を心掛けた。

排泄後には手洗いを行う事も子どもたちに促し、手を水で濡らした後に石鹸を付けて洗う事や手を洗う前に洋服の袖をあげる事等を伝えた。回数を重ねていくごとに、手洗いの仕方が身に付き、「シュッシュ」と手洗い後のノロノットを要求したり、石鹸の入ったポンプを自分で押して石鹸を出したりする姿が見られた。

【着脱】

排泄時にオムツやズボンの着脱を援助しながら子どもたちに促してきた。自ら着脱を進んで行おうとする子もいれば、保育者の援助を待つ子もおり、全員が着脱を自分で行う事は無かった。しかし、保育者が個々の様子を見ながら声掛けをしたり、援助したりする事で、少しずつ着脱の仕方を覚え自分でしようとする姿が増えた。

【準備と片付け】

登園時は鞆から汚れ物袋や午後に着る衣服を出し、夕方は汚れ物袋を鞆に入れる事を取り組んだ。繰り返し行う事で、上手く開ける事ができなかったファスナーを自分で開ける事ができるようになり、出し入れする事がスムーズになった。中には、友だちの手伝いをする子もおり自分でできる事が増えた事で自信に繋がる姿が見られた。



5) 自分でしっかり食べると共に、食事マナーを知る。(食育)

食事をする際、スプーンの持ち方を上持ちから下持ち、三点持ちの順序で食べる事ができるように、個々に合わせて持ち方を促してきた。手掴みが多かった子どもたちも繰り返し伝える事で、スプーンの上持ちや下持ちで食べる姿が多く見られるようになった。中には、食べにくい物は手掴みで食べる姿も見られたが声を掛けると、スプーンを持って食べる事ができた。

苦手な食べ物があると保育者の促しや励ましにより、一口食べてみようとする姿も見られたが、床に落としたり、他の食材と混ぜて遊んだりする姿もあった。無理に完食を促さず、一口でも食べる事、食べ物で遊んではいけない事は2歳児クラスでも行うよう、引き継ぐ。



6) 保育者との信頼関係の中で、見守られながら、安心して過ごす。<養護>

子どもたちの気持ちを汲み取ったり代弁したりしながら共感すると共に、その都度寄り添う事で安心して過ごせるように関わってきた。日々の生活や遊びを通して、保育者が関わり、寄り添うことで、子どもたちは笑顔でたくさん遊んだり、簡単な身の回りのことを意欲的に取り組んだりする姿が見られるようになった。

一方で、保育者の言葉の掛け方や子どもへの対応について不適切であると捉えられる場面や行動もあった。その都度クラスミーティングで、関わり方や対応について振り返り、改善策を話し合った。子どもたちが安心して保育園生活を楽しめる為に、保育者の関わりは重要であるので担任全員が意識して言葉を掛けたり対応したりするを行い、問題があった時には話し合いを行い、解決する事を今後も必要である。



3. 1年間の総合的な振り返り

生活面では、“自分のことは自分でやってみようとする”という気持ちを大切に、一人ひとりが簡単な身の回りのことを取り組めるように、子どもの様子を見ながら促したり支援をしたりした。時にはすぐに手を貸すのではなく待ったりする姿勢も大切にした。その様に関わる事で、少しでも「じぶんでできた」という時の子どもたちの表情は、とても嬉しそうであった。引き続き“自分でできる(経験の積み重ね)”時間を大切に、できることが一つでも増えるように関わり、支援を行う事が1歳児クラスでは必要である。

友だちとの関係では、気の合う友だちと仲良く遊ぶ姿もあれば、遊びを通してトラブルが起きてしまい、怪我に繋がることもあった。そのような行動が見られた際には子どもたちが何をしたいのかを受け止めつつ、何故やってはいけないのか、何をしたらよいのかを子どもたちに合わせて伝えることを心掛けた。子どもたちの成長に伴い、言葉が増える事で「かして」「ちょうだい」と自分から言う姿が見られた。中には自分が使っていた玩具を友だちに貸すなど友だちに対する思いやりが見られる子もいた。その際は「上手に言えたね。」「やさしいね。」と子どもたちを褒め、今の行為が良い事だという事を伝える事を心

掛けた。しかし、現在でも相手の子に思わず手が出てしまう場面は見られる。今後も、貸し借りの仕方を教えたり、順番を保育者と一緒に待ったり、友だちが今どんな気持ちかを代弁をしたりしながら、保育者の仲立ちのもと、友だちとの関係作りを支援する必要がある。

また、担任間での連携やコミュニケーションでは毎日クラスミーティングを行う事により、一日を振り返るだけでなく、動きについての改善策や提案を担任間で出し合えることができた。それぞれの考えや意見を出し合う事で担任間のコミュニケーションが深まり、連携が取りやすくなったと考える。午睡の時間帯を上手く使い、クラスミーティングを行えたことは良かった。

6. 0歳児 さくらんぼ組 保育実践・評価と改善の課題

《定期保育活動》

・誕生会（毎月1回） 保護者不参加

（4/22,5/27,6/24,7/29,8/18,9/30,10/28,11/17,12/15,1/27,2/24,3/9）

・毎週土曜日（異年齢保育）

4月	5月 (13) お弁当の日	6月
7月 (7) 七夕 (21) おまつりごっこ	8月	9月
10月 (27) お弁当の日	11月 (8) ミツル&りょうた コンサート	12月 (14) もちつきごっこ (23) クリスマス会 (28) 保育終了
1月 (4) 保育始め	2月 (3) 節分 (7) お弁当の日 (10) お店屋さんごっこ	3月 (2) お弁当の日 (3) ひな祭り

1. 年間保育目標

- 1) 興味や好奇心の芽生えを育む。(遊び)
- 2) 保育者との語り掛けを通して、やり取りを楽しむ。(コミュニケーション)
- 3) 保育者と一緒に、歌や音の心地良さや楽しさを感じる。(音楽)
- 4) 保育者と一緒に、五感を感じることを楽しむ。(体験)
- 5) 様々な食材を味わい、楽しく食べる。(食育)
- 6) 保育者との信頼関係をもとに、安心して過ごす。(養護)

2. 年間保育目標の振り返り(評価と改善の課題)

1) 興味や好奇心の芽生えを育む。(遊び)

様々な素材の玩具の感触の違いを感じながら、指先でつまんだり、握ってみたり、離したりする等、指先を使った遊びを楽しむ姿が見られた。マットの山登り、トンネル等、運動器具を用いて全身を動かしながら健康な体を作っていた。4月ではトンネルをくぐれなかった子どもたちも、日々遊びの中に取り入れることで、今ではお気に入りの遊具になり自ら出入りを楽しむ姿が見られるようになった。また、落ち着いた雰囲気の中で、保育者を通して友だちと一緒に遊んだり、戸外遊びやおまつりごっこなどの行事では、年上の子たちと関わりを楽しむ姿が見られた。

天気の良い日には、園庭やテラスに出る等、季節の草花等に触れたり、心地よい風を感じたり、日向ぼっこをしたりしながら、季節を感じる事ができた。



2) 保育者との語り掛けを通して、やり取りを楽しむ。(コミュニケーション)

保育者や異年齢の友だちと一緒に過ごす事で、自分の意志や欲求を自分なりに表現し、伝えようとする力を育て、子どもの気持ちに共感しながら、情緒の安定を図るよう日々の保育者との信頼関係を大切にしてきた。友だちとの関わりが増えるにつれ、玩具や場所の取り合いになったり、自分の思いが上手く表現できなかつたりすると、噛みつきや引っ掻き等で自分の思いを表現する姿が見られた。その時は、噛みついたり、引っ掻いたりすることは間違った行為であることを言葉で伝えた上で、「嫌だったよね」「悲しかったよね」と子どもたちの気持ちを受け止め、「かして」「いいよ」などその時伝えるべき言葉を伝えた。月齢が高い子は言葉やジェスチャーで自分の伝えたい言葉を相手に伝えようとする姿が見られるようになった。

オムツ交換では、オムツかぶれや子どもたちが気持ちよく過ごせること等を考慮し、細かく変えるよ

うにし、交換の際には、顔を見ながら言葉掛けを行い、替えてもらった気持ちよさを伝えてきた。また、睡眠時には、抱っこをしたり、子守歌を歌ったりしながら、安心して眠ることが出来るようにお腹をさすると落ち着いて入眠する姿が見られた。



3) 保育者と一緒に、歌や音の心地良さや楽しさを感じる。(音楽)

保育者の手遊びや歌声に合わせて、体を左右に揺らしたり、拍手をしたりする等、音楽に親しむ姿が見られた。わらべうたでは、様々なわらべうたを通して、保育者との触れ合いを喜び、保育者に手や足を何度も出して「もう一回して」と伝え、関りを求める姿があった。そして、日々季節の歌を歌ったり、聴いたりしていく中で季節を感じた。

大太鼓やシンバル、トライアングルなどの色々な楽器の音色を聴き、音に興味関心が持ち音色を楽しむことができた。

これからも、毎日の生活の中で、音楽に触れる時間を取り入れていき、他の楽器にも親しむ機会を取り入れる事が必要である。



4) 保育者と一緒に、五感を感じることを楽しむ。(体験)

天気のいい日には、バギーに乗って外の風にあたりながら散歩をしたり、テラスに出て草花や落ち葉に触れたりして、季節を感じる事ができた。夏の水遊びでは水の冷たさや気持ちよさを感じたり、戸外の砂などに触れ感触を楽しんだりする姿が見られた。

給食では、季節の食べ物を保育者が食材の名前を言葉で伝えながら季節の味覚を感じられるようにした。子どもの「やりたい」という気持ちを尊重して保育を計画する事が大切だと感じた。



5) 様々な食材を味わい、楽しく食べる。(食育)

「給食の歌」「おやつ之歌」を歌い、歌を通して「いただきます」「ごちそうさま」の挨拶をすることで、食べる前には自分で手を合わせてお辞儀をして食べ始める姿が見られるようになった。離乳食では、子どもと一緒に保育者も口を動かしながら、「もぐもぐごっくん」など声掛けを行い、よく噛んで食べることができるよう見守ってきた。好き嫌いのある子には、保育者が美味しそうに食べる姿を見せ、楽しんで食事できるように心掛けた。これからも、子どもたちが食事を楽しめるようにそばで見守るように関わる。その際、子どもたちの成長に合わせて、手掴み食べの子には、スプーンに移行できるよう繰り返しスプーンの持ち方を伝える。また、遊びの中でもスプーン遊びを取り入れるよう計画する。



6) 保育者との信頼関係をもとに、安心して過ごす。(養護)

入園当初は、朝の受け入れの際や日中に、保護者の方を思い出し、涙が止まらない姿が多く見られた。しかし、保育者が抱っこやおんぶをしたり、優しく声掛けをしたりすることで、徐々に涙が出る時間が減り、笑顔で過ごす時間が増えた。保育者との信頼関係ができ、自分の意思を身振りや手振りで伝える姿も見られるようになった。これからも、一人ひとりが安心して園生活を送ることができるよう安全面、衛生面に配慮し、子どもの気持ちを汲み取り大切にしながら保育を行う事を心掛ける。



3. 1年間の総合的な振り返り

新型コロナウイルス感染拡大防止のため保護者の方々にたくさんのご協力をいただいた一年間でもあった。同じ保育室の中で少人数ずつに分かれて過ごし、保育者は子どもたち一人ひとりとしっかりと向き合い、子どもの気持ちを受け止ながら保育を行うことで子どもたちと信頼関係を築くことができるように努めてきた。保育の中で保育者が子どもたちと一緒に遊びを行いながら保育者が笑顔で遊ぶ姿を見せ、スプーンの持ち方、衣服の着脱など身の回りのことを優しく声をかけ、伝えていくことで子どもたちが楽しみながら「自分でできた」という達成感を感じるようにしてきた。これからも子どもたちが安心・安全に笑顔で園での生活を送れるように職員一同努力する。

7. 園全体で行う行事 実施報告・評価と改善の課題

4月	5月	6月
(18) 5歳児個人面談 (19) 5歳児個人面談 (20) 4歳児個人面談 (21) 4歳児個人面談 (25) 3歳児個人面談 (26) 3歳児個人面談 (27) 2歳児個人面談 (28) 2歳児個人面談	(9) 1歳児個人面談 (10) 1歳児個人面談 (11) 0歳児個人面談	
7月	8月	9月
(16) 童謡まつり (25) フレンドリーコンサート 小リハーサル(未満児) (26) フレンドリーコンサート 小リハーサル(3歳以上児)	(3) フレンドリーコンサート 中リハーサル(未満児) (5) フレンドリーコンサート 中リハーサル(3歳以上児) (17) フレンドリーコンサート 総合リハーサル (23) フレンドリーコンサート 総合リハーサル (27) フレンドリーコンサート	(1) 保育参観 (6) 保育参観 (7) 保育参観 (8) 保育参観 (9) 保育参観 (27) 小運動会(未満児) (29) 小運動会(3歳以上児)
10月	11月	12月
(12) 中運動会(未満児) (14) 中運動会(3歳以上児) (18) 運動会総合リハーサル (22) 運動会	(1) 遊戯会小リハーサル (未満児) (2) 遊戯会小リハーサル (3歳以上児) (14) 遊戯会中リハーサル (未満児) (16) 遊戯会中リハーサル (3歳以上児) (22) 遊戯会総合リハーサル (28) 遊戯会0歳児リハーサル (30) 遊戯会総合リハーサル	(3) 遊戯会
1月	2月	3月
(17) 保育参観 (18) 保育参観 (19) 保育参観 (20) 保育参観 (24) 保育参観 (25) 保育参観 (26) 保育参観 (30) 1,5歳児個人面談 (31) 1,5歳児個人面談	(1) 2,4歳児個人面談 (2) 2,4歳児個人面談 (3) 0,3歳児個人面談 (7) 0,3歳児個人面談	(8) 卒園式リハーサル (15) 卒園式リハーサル (17) 卒園式リハーサル (19) 卒園式

1. 童謡まつり（7月16日実施）

ねらい

1) 親子で一緒に遊びながら、お祭りの雰囲気を楽しむ。

評価

- (ア) 3年ぶりの開催となったが、多くの保護者と子どもたちが参加をしてくださり、各ブースにおいて、親子で楽しむ姿が見られた。
- (イ) クラス別の入場を行い、また未満児クラスと3歳以上児クラスの入場口を別にする等、密を避ける対応を行った為、ゆっくりと取り組むことができた。
- (ウ) 1階から3階までを使い、にじの会と園とでゲームコーナーを準備した。景品が無くなったり、担当者を増やしたりと急遽の対応もあったが、互いに声を掛けたり連絡しあったりすることで、上手く対応する事ができた。
- (エ) 園が準備したゲームコーナーは子どもたちに合わせた内容をクラス間で話し合い、準備を行った事で、どの年齢の子どもも楽しむことができた内容となった。

改善の課題

- (ア) にじの会が準備したボウリングブースが2レーンしかなかった為、列ができていた。急遽3レーンにして対応した。
- (イ) 役員の方に水分補給として緑茶（ペットボトル）を随時渡していたが、汗をかいている方が多かった為、スポーツドリンクでも良かった。
- (ウ) 2階の各ブース（にじの会）の飾りが少なかった。園全体で環境を整える必要があった。
- (エ) 3歳以上児のきょうだい児（未満児）が3階ブースで遊ぶ事が多かった為、未満児ブースがある事を伝えると良かった。
- (オ) ゲームや園全体の環境の準備が遅かった。5月頃には企画書を配布し、準備に取り掛かる事ができるようにする。



2. フレンドリーコンサート（8月27日実施）

ねらい

1) さまざまな楽器の音色やハーモニーを聴き親しむ事で、感性を豊かにする。

2) 大勢の人前で、歌や音を通して表現することを楽しむ。

評価

- (ア) フレンドリーコンサートで歌う曲を日頃から朝の会や活動の中で歌っていたので、子どもたちも覚え、手を動かしたり体を左右に揺らしたりなどして楽しんで歌う姿が見られた。
- (イ) 3歳以上児クラスは保育室に歌詞を貼っていたことで、友だちと一緒に歌詞を見ながら歌う姿もあった。
- (ウ) 合奏を行う際、楽器ごとに担当者を決めていたので、パート別で練習を進める事ができた。
- (エ) 当日は、各担当者が互いに声を出し合っており、連携が取れていた。

改善の課題

- (ア) 小リハーサルの時点で歌・合奏が形になっていないクラスもあった。小リハーサルまでにどこまで進んでおくべきなのかをクラスごとではなく、園全体で確認をして見通しを持って取り組むことが必要であった。
- (イ) 曲に合わせた歌い方をまずは保育者が理解し、子どもたちに伝える事が必要であった。
- (ウ) ステージで歌う経験が少ないと、保育室で歌うよりも声が小さくなっていたので、普段からステージに立って表現する事に取り組むことが必要だと感じた。
- (エ) フォトシネマの写真を各クラスで選んでもらったが、選び直す事もあった。事前に写真の選び方を伝えた上で、選んでもらう必要があった。
- (オ) 3階エントランスで子どものお迎えをお願いしたが、終了したクラスと次のクラスが入り混じってしまった。途中から案内の担当者を付けたが、終了したクラスは2階に移動するなどの対応が必要であった。
- (カ) 駐車場の入れ替え時間が短かった。利用する駐車場を増やして対応するべきだった。



3. 運動会（10月22日実施）

ねらい

- 1) 自分の力を十分に発揮し、達成感や充実感を味わう。
- 2) みんなで力を合わせて競技に取り組み、表現することを楽しむ。

評価

- (ア) 普段から遊んでいる動きや曲を取り入れた内容になっていたため、子どもたちも受け入れやすく楽しんで行う姿が見られた。
- (イ) 当日は涙を流す子もいたが、クラス以外からも職員が入ったことで落ち着いて対応する事ができた。
- (ウ) 終了後、大門前に水を入れたタライと足ふきマットを準備した。子どもたちが足を洗う事ができ、保護者からも喜ばれた。数が足りなかつたので、来年度は多めに準備する。
- (エ) 駐車場を3か所利用する事で、出入りがスムーズに行う事ができた。
- (オ) 整理券順の入場だったが、きちんと整理券を見せてもらう事で確認しやすかった。
- (カ) 1～5歳児のかけっこでスタート前に名前を呼ぶ事で、全体で確認できたことは良かった。

改善の課題

- (ア) 曲の選定を早めにして、普段から子どもの耳に慣れさせることが必要。また、入退場の曲もクラスで決めておくとう良かった。
- (イ) 行程表を作成し、いつまでに何をしておくのかをはっきりと確認できるようにして取り組むことが必要であった。
- (ウ) 雨天時は3階ホールで行うので、3階ホールでの動きについても確認しておくとう良かった。
- (エ) ダンスの振りをきちんと揃える。一つひとつの動きを丁寧に確認し、子どもたちにもゆっくり伝

える。隊形移動の際は、地面に線を書いて分かりやすいようにする。

- (オ) 保護者の検温をAI 体温計で行ったが、検温せずに入ろうとする保護者もいた。確実に行うには非接触型体温計も使うと確実ではないかと感じた。
- (カ) マイクの調子が悪く3本中1本しか使えない時もあった。事前に点検を行い、準備不足にならないようにする。
- (キ)トラックの中心線をきちんと測って決め、次年度も分かるように印を残す。



4. 遊戯会(12月3日実施)

ねらい

- 1) 一人ひとり、持っている力を十分に発揮して、大勢の前で発表する喜びを味わう。
- 2) 友だちと協力する中で、一つの事をやり遂げる事に自信を持ち、次への意欲に繋げる。

評価

- (ア) 当日は涙を流した子もいたが、ステージに立つことに慣れてきた事で、笑顔で表現する子が多かった。
- (イ) オペレッタ・遊戯をクラス全体で取り組んできた事で、担任全員が振りや歌を覚えて子どもたちと練習する事ができた。
- (ウ) 玄関通路を2方向に分けていたことで混雑もせず、スムーズに誘導と声掛けができた。
- (エ) 新型コロナウイルス感染症が流行した為当日参加できない子もいたが、後日“ミニ遊戯会”を行い、保護者の方にも子どもたちの遊戯やオペレッタを見て頂くことができた。

改善の課題

- (ア) 各クラスでステージに付く職員の配置を決めてはいたが、担当職員が休みになると他の職員では分からない部分も出てきた。また、遊戯の振り付けが変更になったことを担任間で共有できていなかった。クラス担任全員がオペレッタも遊戯も振りや歌を覚えて、変更点の共有を行うようにする。
- (イ) オペレッタの最中に動いた子どもを職員が前から止める事があった。ステージ上での職員の動き方や子どもの付き方をきちんと伝える事が必要だった。
- (ウ) クラス別に行ったが、一部の保護者が始まったことを知らずにプログラムを進めたので、事前に園全体にアナウンスをすると良かった。



5. 卒園式（3月19日実施）

ねらい

- 1) 小学校入学への期待を高める。
- 2) 保育園生活を振り返り、成長に喜びと誇りを持つ。
- 3) お世話になった先生や保護者等、多くの人に支えられてきたことへの感謝の気持ちを持つ。

評価

- (ア) 卒園式の練習をクラスだけでなく、実際にホールを使って行う事で緊張感のある中で練習ができた。
- (イ) はじめは、子どもたちも40分程度静かに座って待つという事が難しかったが、繰り返し練習をする事で、多くの子が卒園証書授与が全員終わるまで、静かに座って待つ姿が見られた。

改善の課題

- (ア) 初めてのリハーサルでは、ほとんどの子が40分程度座って待つという事が難しく、体を動かしたり周囲の子と喋ったりする姿が目立った。日頃から人の話を聞く態度・姿勢を具体的に伝え、子どもが習得できるように取り組まなければならないと感じた。
- (イ) 卒園式終了後、5歳児クラスだけのお別れ会を行ったが、想定以上に時間が掛かった。クラス担任以外の職員が園前駐車場で卒園生を見送る形にしていたので、5歳児担任とお別れ会の内容について協議する必要があった。



6. 個人面談（4～5月・1～2月実施）

ねらい

- 1) 子どもの姿を伝え、園と家庭とで連携を図る。
- 2) 進級・就学に向けて子どもの育ちを園と家庭とで共有する。

評価

- (ア) 1家庭15分程度で園と家庭での様子についてリモートで保護者と話をした。きょうだい児のいる子どもは、きょうだい児の日程に面談日を合わせお話しする事ができた。
- (イ) 2月の個人面談では、1年間の成長と進級・進学に向けた話を保護者と共有することができた。

改善の課題

- (ア) 5月の面談では、全クラス共通シートを作成しておらず、クラスによって伝える項目が異なる部分もあった。2月の面談においてはクラス共通のシートを使い、園での様子を統一した項目でお伝えをした。また、保護者の話もシートに書き込めるようにし、来年度への引継ぎシートになるように作成した。次年度は1年間を通してのシートを作成し、子どもたちの成長がシートを通して把握できるようにする事が必要であると感じる。

7. 保育参観（9月・1月実施）

ねらい

1) 子どもたちの日常の姿を見て頂くと共に成長を感じて頂く。

評価

- (ア) 9月・1月共に1週間程度の期間、更に1日を3つの時間帯に分けた。保護者に事前に参加希望日を提出して頂き、1枠（25分）に3組ずつ入って頂いた。
- (イ) 3組ずつの参観となったことで、密の状態にならず子どもたちの普段の姿をゆっくりと見て頂くことができた。未満児クラスの子どもたちは保護者を見て泣く子もいたが、保護者も保育に参加して頂くなどして一緒に楽しむことができるよう配慮した。
- (ウ) 保育参観に参加された保護者にはアンケートを記入して頂いた。「日頃の様子を見ることができて、安心しましたし、うれしかった。」久々の保育参観で子どもたちの姿を見る事ができた事を喜ばれる保護者の声が多かった。

改善の課題

- (ア) 保護者アンケートの中には、保育内容や保育者の対応について厳しい意見があった。アンケートの内容については全クラスで共有し、対応について各クラスで振り返りを行った。

8. 食育 実施報告・評価と改善の課題

《定期保育活動》

・給食の放送（毎日）・給食担当者、5歳児

4月	5月	6月
(1) 入園・進級おめでとう ランチ (15)熊本地震の日 (22)誕生会	(6) こいのぼりカレー (13)お弁当の日 (27)誕生会	(7) ポップコーン屋さん (24)誕生会
7月	8月	9月
(7) 七夕ランチ (16)童謡まつり (29)誕生会	(18)誕生会 (25)ゼリーパーティ (29)フレンドリーコンサート	(8) おにぎり屋さん (30)誕生会
10月	11月	12月
(22)運動会 (26)ハロウィンランチ (27)お弁当の日 (28)誕生会	(4) さつまいもパーティ (5) わくわくキャンプ (6) わくわくキャンプ (17)誕生会	(3) 遊戯会 (15)誕生会 (23)クリスマス会
1月	2月	3月
(12)おでん屋さん (17)阪神淡路大震災の日 (27)誕生会 (31)サンドイッチ屋さん	(3) 節分ランチ (6) 王丸デイキャンプ (7) お弁当の日 (8) 王丸デイキャンプ (9) 王丸デイキャンプ (15)鍋パーティ (24)誕生会	(2) お弁当の日 (3) ひなまつりランチ (6) クッキー屋さん (8) 東日本大震災の日 (9) 誕生会 (17)卒園おめでとうランチ (19)卒園式

1. 年間給食目標

- 1) 郷土料理、旬のものを取り入れた献立を提供する。
- 2) 安心して安全な給食を提供する。
- 3) 保育と連携をとり、年齢に応じたクッキングや食育を行う。
- 4) スプーン、フォーク、はしの正しい持ち方を保育と家庭と連携して伝える。
- 5) 園内放送や一緒に食事をする中で正しいマナーを伝える。
- 6) 乳幼児の発育状況に合った食事を提供する。

2. 年間の振り返り（評価と改善の課題）

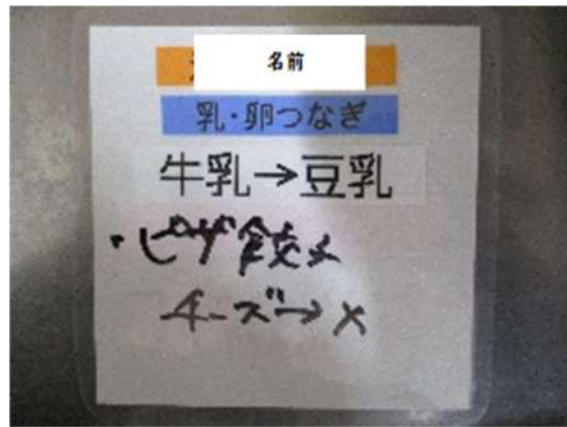
1) 郷土料理、旬のものを取り入れた献立を提案する。

郷土料理は事業計画通り、毎月2つを献立に取り入れることができた。また、世界の料理も毎月1つを献立に取り入れることができた。次年度も計画通りに毎月2つの郷土料理と1つの世界の料理を献立の中に取り入れていく。また、季節の旬のものを積極的に取り入れることができた。旬の食材の皮むきを子どもたちと一緒に行うことで、より子どもたちの食材への興味関心を深めることができた。次年度も今年度と同様に子どもたちが旬の食材に触れる機会を多く作り、食事の給食の放送で食材について伝えていく。



2) 安心して安全な給食を提供する。

可能な限り、外国産の食材を除いて発注を行った。衛生マニュアルにならい、こまめな手洗いや衛生管理を徹底して取り組むことができた。除去カードや除去表を用いて、調理・配膳時にお互いで声掛けを行いアレルギー除去食が確実に提供できるように努めた。また、アレルギー食の提供までの流れをマニュアル化し、統一して対応することができた。調理で使用する食材に対しては安全面を考えて提供できるよう、食材についての知識を身につけ、調理を行った。今後も決まったことを継続し、問題点があればその都度話し合いを行い、改善していくようにする。



3) 保育と連携をとり、年齢に応じたクッキングや食育を行う。

今年度のクッキングは、食育年間計画に取り入れていたが、新型コロナウイルス感染症防止のため、ほとんど実施できなかった。5歳児（キャンプ）のカレー作りのみ実施した。次年度は、保育と連携をとり、クッキングを行っていく。

食育では、震災の食育を行うことで、食べ物大切さや日々の生活への感謝の気持ちを育むことができた。次年度は、積極的に食育を行っていくようにする。



4) スプーン、フォーク、はしの正しい持ち方を保育と家庭と連携して伝える。

新型コロナウイルス感染症防止のため、子どもたちと一緒に食事を行い、正しい持ち方を伝えることはできていなかった。また、あまり食事の様子を見に行くことができていなかったため、正しい持ち方を伝えることができていない。次年度は、積極的に子どもたちの食事の様子を見に行き、保育と家庭と連携し、スプーン、フォーク、はしの正しい持ち方を伝えていく。

5) 園内放送や一緒に食事をする中で正しいマナーを伝える。

年間を通してつながりを考え、月ごとのマナーの目標を決め、毎日の給食の放送をする中で伝えた。新型コロナウイルス感染症防止のため、子どもたちと一緒に食事を行うことはできていない。今後は、放送内容を工夫することで、より内容が伝わるよう考えていく。また、積極的に各クラスへ行き、子どもたちの食事の様子を見ながらマナー面や給食の内容について伝えていく。



6) 乳幼児の発育状況に合った食事を提供する。

離乳食では、調理従事者も子どもたちの食事状況を見たり、食事介助を行ったりすることができた。今後も離乳食の食事介助を行い、一人一人の食べ方や特徴を知ることによって、より個別対応の充実をはかっていきたい。手づかみ食べの練習や果物を食べる練習をあまり行うことができていなかったため、次年度は、計画的に行っていく。普通食では、子どもの発達に合わせ、保育士と相談した上で、果物の皮の有無を決めたり、陶器のご飯茶碗を使用したりするようにした。個別に配慮が必要な子どもに対しては、様子を見ながら発育状況にあった食事を今後も提供していくようにする。



3. 年間の総合的な振り返り

安心して安全な給食の提供のために、問題点があった場合は、その都度、話し合いを行い、改善してした。また、職員間のコミュニケーションを積極的に行い、給食運営を円滑に行うことができた。年間食育計画通りに、お便りの発行やお楽しみ給食の提供などを行うことができた。お楽しみ給食では、目で見ても楽しめるようにラミネート等で飾り付けを行った。今後は、飾りだけではなく、食材を生かして楽しめるようなお楽しみ給食を行っていく。

食育やクッキング、スプーン・フォーク・はしの正しい持ち方、離乳食の手づかみ食べについてなど、保育と連携して行うことができていなかったため、次年度は連携を行い、計画的に実行していく。

9. 健康・衛生 実施報告・評価と改善の課題

《定期内容》

- ・身体計測（毎月1回）
- ・ほけんだより発行（毎月1回）
- ・爪シラミチェック（毎週月曜日）
- ・園内の感染症状況を保護者、職員へ知らせる。（毎日）
- ・熱中症指数及び紫外線指数を掲示板にて毎日保護者・職員へ知らせる。（毎日）
- ・園児健康診断（年2回）
- ・園児歯科検診（年2回）
- ・尿検査（年2回）
- ・ぎょう虫検査（年1回）

4月	5月	6月
(1) ほけんだより発行 (1～7) 身体計測 (27) 園児健康診断	(2) ほけんだより発行 (2～7) 身体計測 (25) ぎょう虫検査 (25,26) 全園児尿検査	(1) ほけんだより発行 (1～7) 身体計測
7月	8月	9月
(1) ほけんだより発行 (1～7) 身体計測	(1) ほけんだより発行 (1～7) 身体計測	(1) ほけんだより発行 (1～7) 身体計測
10月	11月	12月
(1) ほけんだより発行 (1～7) 身体計測 (5) 歯科検診 (26) 園児健康診断 年中健診 (25,26) 全園児尿検査	(1) ほけんだより発行 (1～7) 身体計測	(1) ほけんだより発行 (1～7) 身体計測
1月	2月	3月
(4) ほけんだより発行 (4～7) 身体計測	(1) ほけんだより発行 (1～7) 身体計測 (15) 歯科検診	(1) ほけんだより発行 (1～7) 身体計測

1. 年間保健目標

- 1) 清潔で安全な環境を整え、感染症の流行や事故を防ぐ
- 2) 健康観察、園児の健康状況をまとめ異常の早期発見に努め適切な対応をする
- 3) 子どもに自分の体を知り、自分の体と友達の体を守るための健康教育を行っていく
- 4) 新型コロナウイルス感染症対策の徹底

2. 年間の振り返り（評価と改善の課題）

1) 清潔で安全な環境を整え、感染症の流行や事故を防ぐ

評価

・感染症

- (ア)「嘔吐下痢症」に関しては、4月4名、5月10名、6月4名、7月2名、8月1名、9月1名、11月4名、12月7名、1月1名、2月1名と年間を通して見られた。適切な嘔吐処理、消毒により拡大は防いでいる。
- (イ)「インフルエンザ」に関しては、1月に入ってから罹患数が増えた。全園児中24名。学校保健法に基づいた登園基準をもうけ、保護者の協力も得られている。保育室の室温管理はされているが、湿度の調節が必要と感じる。罹患率の高いクラスには環境整備として、加湿器を導入、毎日の水の取り換え等の衛生管理を気を付けたい。
- (ウ)「流行性結膜炎」1名、「アデノウイルス」18名、「ヘルパンギーナ」13名、「RSウイルス」12名等がでた。

・事故

- (ア)ほとんどが園内で起こったものであった。特に、多かったのは「転倒」「転落」による打撲。「ひっかき」などによる皮膚科科への受診。

改善の課題

- (ア)抵抗力の弱い、0、1歳児の環境整備をもう少し、工夫できるのではないか。手洗い、おもちゃの消毒、トイレ環境の整備（裸足での出入り、エプロンは誰のための物か？清潔か不潔か等）。意識が高まっているので、このまま来季も、検討していく。
- (イ)事故に関しては、事故の起きやすい時間帯や、場所を見直す。行事の前などは、イレギュラーな事が多い為、事故予防の啓発をしていく。
- (ウ)緊急時の対応について、緊急時訓練時に「熱性けいれん」「誤飲」の対応を組み込む。
(また、乳幼児の対応だけでなく、成人の対しての応急手当等も必要と感じる)
- (エ)手洗いを正しく身につけ、習慣化させるため、給食前の手洗い時間に、「手洗いの歌」を流し、指導していく。
- (オ)「嘔吐処理」についてのマニュアルの見直し、全職員が同じ対応ができるよう研修を行う。
(保育活動中、食事中、午睡中、人が足りない時、様々な場面を想定しての職員の動きを詳細に、明確にする。)

2) 健康観察、園児の健康状況をまとめ異常の早期発見に努め、適切な対応をする

評価

- (ア)全園児に対して、年2回の「健康診断」「歯科検診」「ぎょう虫検査」「尿検査」実施。
尿検査（春：要検査1名、秋：要検査3名）
ぎょう虫検査（陽性0名）

歯科健診（むし歯：1回目 30名、2回目 20名）

異常が見つかった児の、医療機関受診済。結果、全園児、異常なし。

（イ）園で熱性けいれんを起こした児に対して、登園時の検温とは別に、朝の検温を実施している。

課題

（ア）ぎょう虫検査、尿検査の提出に時間がかかる為、保護者へ連絡する際は、日時、採取方法等、わかりやすく伝える。

3) 子どもに自分の体を知り、自分の体と友達を守るための健康教育を行っていく

評価

（ア）「手洗い」についての健康保育を3月に実施予定。子ども達に、まずは自分の体に興味を持ってもらう為に、コミュニケーションを大切にしながら、健康教育を行い、意識づけていく。

（イ）他の行事も多い為、今期は実施できなかったが、来期は3回に分けて実施できるよう取り組みたい。

改善の課題

（ア）キャンプ、戸外遊び、お散歩（どんぐり拾い等）草木近くに行く前には、蜂や虫についての注意を呼びかけ、対策を行う。

（イ）来期は、保育士、給食室等の意見も聞き連携して、健康教育を実施していきたい。

4) 新型コロナウイルス感染症対策の徹底

評価

（ア）数名の感染があった。0歳児の感染が多く見られた。0歳児の感染が増えた時、4日間のクラス閉鎖を行った。クラス閉鎖を行った後、感染が減少した。

改善の課題

（ア）新型コロナウイルス感染症は消失していないため、引き続き対策を行っていく。

10 . 災害・緊急時訓練 実施報告・評価と改善の課題

《定期訓練》

- ・避難・消火訓練（毎月1回）
- ・不審者訓練（毎月1回）
- ・消防自主点検（毎週土曜日に実施）

4月	5月	6月
(6) 避難・消火訓練 (15) 地震訓練 (20) 不審者訓練	(10) 緊急時訓練 (1歳児) AED・ベビーアン使用 (17) 不審者訓練 (23) 避難・消火訓練	(7) 避難・消火訓練 (14) 水害訓練 (21) 不審者訓練
7月	8月	9月
(8) 不審者訓練 (13) 避難・消火訓練 (21) 緊急時訓練 (0歳児) AED・ベビーアン使用	(9) 避難・消火訓練 (12) 不審者訓練 (16) 水害訓練	(10) 地震訓練 (20) 不審者訓練 (21) 避難・消火訓練
10月	11月	12月
(5) 避難・消火訓練 (13) 不審者訓練 (19) 緊急時訓練 (5歳児)	(8) 避難・消火訓練 (15) 不審者訓練 (30) 緊急時訓練 (3歳児)	(6) 避難・消火訓練 (14) 不審者訓練 (20) 緊急時訓練 (4歳児) AED・ベビーアン使用
1月	2月	3月
(13) 避難・消火訓練 (延期) 地震訓練 (30) 不審者訓練	(8) 不審者訓練 (16) 避難・消火訓練 (20) 緊急時訓練 (2歳児)	(1) 避難・消火訓練 (8) 地震訓練 (15) 不審者訓練

1. 年間訓練目標

1) 非常時でも常に冷静に対応し、子どもの安全を第一に考え、的確に避難する。

2. 年間の振り返り（評価と改善の課題）

1) 非常時でも常に冷静に対応し、子どもの安全を第一に考え、的確に避難する。

計画と実践

- (ア) 訓練についてどのくらい把握ができているかアンケートを行った。
- (イ) 緊急時訓練はクラスごとに継続して実施した。その際に必要に応じて AED を使用し、心肺蘇生（ベビーアン使用）を行った。また、心肺蘇生法の確認も看護師の指導の下その都度行った。
- (ウ) 防災自主点検を毎週土曜日に、担当者が行き緊急時に備えた。
- (エ) 避難消火訓練では、“お・は・し・も”を毎月子どもたちに伝えた。

評価と改善の課題

- (ア) “一斉放送”と“一斉呼出”の掛け方や使い方が分からないという記入が多くあった為、各クラスに写真入りのマニュアルを作成後、電話の横に貼り、視覚的に見てわかるようにした。また、避難消火訓練・不審者訓練・地震訓練で曖昧な点もあがった為、それぞれ具体的にマニュアルの作成を行った。
- (イ) 緊急時訓練の際に、年齢ごとの計画を立て行ってきた。しかし、今年度3歳児クラスで実施した際、細かいアレルギー対応（エピペンの持ち出し方、使い方等）について、新たな課題が見つかった。今後も評価・課題を職員会議で伝え、共通理解できるようにしていく。
- (ウ) 毎週土曜日に、早出の担当者が防災自主点検を行い、緊急時に備えることができた。
- (エ) 避難消火訓練では、“お・は・し・も”について、毎月子どもたちに伝えていったが、“走らない”は、建物の中だけで園庭に出たら赤旗を目指して走るという事を、職員間で再度確認を行うと共に、子どもたちにも繰り返し伝えていった。引き続き、園庭に出たら走って避難する事をしっかり伝えていく。



避難消火訓練の様子（初期消火）



避難消火訓練の様子（人数報告）



緊急時訓練の様子



地震訓練の様子（以上児）



地震訓練の様子（未満児）



不審者訓練の様子

11. リスクマネジメント

実施報告・評価と改善の課題

4月	5月	6月
(14日) 令和3年3月の怪我報告書より 令和3年3月の訓練報告 令和3年3月の訓練の振り返り 今年度の課題について 訓練のアンケートについて	(20日) 4月の怪我報告書より 4月の訓練報告(評価・反省・課題)	(17日) 5月の怪我報告書より 5月の訓練報告(評価・反省・課題)
7月	8月	9月
(22日) 6月の怪我報告書より 6月の訓練報告(評価・反省・課題)	(19日) 7月の怪我報告書より 7月の訓練報告(評価・反省・課題)	(15日) 8月の怪我報告書より 8月の訓練報告(評価・反省・課題)
10月	11月	12月
(20日) 9月の怪我報告書より 9月の訓練報告(評価・反省・課題)	(18日) 10月の怪我報告書より 10月の訓練報告(評価・反省・課題)	(16日) 11月の怪我報告書より 11月の訓練報告(評価・反省・課題)
1月	2月	3月
(20日) 12月の怪我報告書より 12月の訓練報告(評価・反省・課題)	(17日) 1月の怪我報告書より 1月の訓練報告(評価・反省・課題) 来年度の訓練に向けて	(10日) 2月の怪我報告書より 2月の訓練報告(評価・反省・課題)

1. 年間安全目標

- 1) 日常の安全管理を徹底する。
- 2) 災害の備えと避難訓練を徹底する。
- 3) 事故防止マニュアルの整備を徹底し、事故防止に努める。
- 4) 危機管理を徹底する。

2. 計画の実践と評価・改善の課題

1) 日常の安全管理を徹底する。

計画と実践

- (ア) 怪我が起きた際に、現場検証及び改善を行う。
- (イ) 怪我が起きた原因を、職員間で話し合いを行い、同じ怪我が起きないように職員間で情報を共有し徹底できるようにした。

評価と改善の課題

- (ア) 怪我が起きた際には、園長、主任もしくは副主任に報告し、なぜ起きたのかをクラスで検証を行うようにした。毎月の会議の中で、前月の怪我報告書の集計を基にクラスでの対応及び保育の評価・改善を促した。
- (イ) 職員間で情報共有を行うことで、昨年より怪我の減少が見られた。引き続き、職員間での見守り態勢や声掛け等、よかった改善策を継続していくことを徹底していく。

2) 災害の備えと避難訓練を徹底する。

計画と実践

- (ア) 訓練(地震・避難消火・水害・不審者・緊急時)を行うことで、災害や緊急時への対応方法(職員動き、子どもの安全確保)について考えた。
- (イ) 訓練の企画書を、職員掲示板に1週間前に掲示をして、周知徹底を行えるようにした。
- (ウ) 訓練を計画する際に、リスクマネジメントの担当者は連続して企画者も担当することで、前回の反省を踏まえた計画を行うことができた。
- (エ) 災害時への備えとして、毎週土曜日に防災自主点検を行い、消火器の位置や避難経路の確認などを行った。

評価と改善の課題

- (ア) 各訓練のねらいを立てることによって、災害時における職員の動き、子どもの安全確保等の確認を行うことができた。その都度、評価・反省を行い、次の課題をねらいとして立て、反省を次の訓練に活かし、改善していくことができた月とできていない月があった。引き続き、同じ課題が出ないように、マニュアルを活用しながら周知徹底を行っていく。
- (イ) 職員掲示板に企画書を掲示していたが、前日や当日になることがあった。企画書を早めに掲示することをしっかり行っていく。
- (ウ) リスクマネジメントの担当者が引継いで行っていたが、リスクマネジメントの担当者同士の引継ぎが上手くできていない時があった。訓練終了後、リスクマネジメントの担当者の引継ぎを徹底していく。
- (エ) 防災自主点検を行うことで、不備を見つけ、直ちに直し、緊急時への設備を整える事ができた。

3) 事故防止マニュアルの整備を徹底する。

計画と実践

- (ア) 毎月の怪我の集計(時間、場所、怪我の内容)を行い、会議に資料として配布をする。
また、前月の怪我データを元に、検討を行う事で、怪我の減少へつなげていくようにする。

評価と改善の課題

- (ア) 毎月の怪我を細かく集計することにより、怪我が起きる人的環境・物的環境の傾向を見出すことができ、怪我への対応方法へと繋げていった。各クラスで怪我の傾向を見出すことで、クラスの担任が未然に防げる怪我もあった。怪我の件数は、時期や子どもたちの発達により変動する姿があったが、行事などでも変動する時があった。引き続き、月毎に各クラスで具体的なねらいを立て、評価・反省・改善点を行い、情報共有をしっかりと行っていく。

4) 危機管理を徹底する。

計画と実践

- (ア) リスクマネジメント会議の内容を職員会議で報告し、職員全体で共有を行った。
- (イ) 点検簿を基に、園内の遊具や玩具の点検等をチェックし管理を行った。
- (ウ) 各クラスの会議で、ヒヤリハット報告の収集を行い、分析及び対策を考え、職員間で情報を共有した。

評価と改善の課題

- (ア) 毎月の会議で、危機管理に対する話し合いや決定事項を職員に伝達、感染対策の情報共有をすることで、事前に回避できることができた。
- (イ) 毎朝、担当者が園庭の遊具の点検を行ったり、その都度、異常があった場合は、主任に報告したりして、直ちに点検し不備を直すようにした。玩具の点検や部屋の環境は、各クラスの点検簿で点検を行うことができた。
- (ウ) クラスの中で起きたヒヤリハットを共有することで、怪我が起きそうな事を予測し、未然に防ぐことができ、怪我の件数を減らす事ができた。引き続き、クラス内でのヒヤリハットの共有を徹底していく。

令和4年度 障がい児保育事業

* 発達コーディネーター職員を配置し、宗像市発達支援センターと連携を継続している。

* 療育手帳について

療育手帳はいくつかの検査を受け、その結果を統合して決定される。

知能指数が指標対象になる。

* ランクについて A1・A2・A3（重度性は数字が少ない方が重度）

B1・B2

* ランクのA・Bの該当者については「保育所障がい児保育事業補助金」を申請することができる。

1. 発達コーディネーター 実施報告・評価と改善の課題

《発達コーディネーター会議内容》

4月	5月	6月
(14) 1. 各クラスより 2. 担当より	(20) 1. 各クラスより 2. 担当より	(17) 1. 各クラスより 2. 担当より 巡回相談について
7月	8月	9月
(22) 1. 各クラスより 巡回相談の報告 2. 担当より	(19) 1. 各クラスより 2. 担当より 巡回相談について	(15) 1. 各クラスより 2. 担当より
10月	11月	12月
(20) 1. 各クラスより 巡回相談の報告 2. 担当より	(18) 1. 各クラスより 2. 担当より	(16) 1. 各クラスより 2. 担当より
1月	2月	3月
(20) 1. 各クラスより 2. 担当より	(17) 1. 各クラスより 2. 担当より	(10) 1. 各クラスより 2. 担当より

1. 年間目標

- 1) 各専門機関との連携を図る。
- 2) 園内での情報交換や情報の集約などを行い、職員間の意思統一に努める。

2. 日常生活の計画・実践と評価・改善の課題

1) 各専門機関との連携を図る。

計画と実践

- (ア) 年2回(5月、9月)発達支援センターの巡回相談が行われた。
- (イ) 保護者の意向で4名が発達検査を受けた。
- (ウ) 市主催の年中健診が10月に行われた。
- (エ) 配慮を必要として挙げている子どもたちの保護者へ保育者から日常の様子を伝える中で、就学相談について紹介したり、保護者からの相談により、機関へ繋げるようにしたりした。

評価と改善の課題

- (ア) 発達支援センターの巡回相談を通して、配慮が必要な子に対しての情報交換や専門機関との連携を取ることができた。今後も、引き続き集団生活での関わり方や活動への促し方、保護者への対応など具体的なアドバイスを頂きながら保育を進める。
- (イ) 発達検査の結果を基に本児の苦手な分野や得意な分野をより細かく把握し、個別に合った対応を行う事ができた。
- (ウ) 健診後に担任とセンターの方で個別配慮が必要な子どもについての話を行った。センターの方からアドバイスを頂く事により、園内での対応に繋げることができた。また、関係機関に繋げる事もできた。
- (エ) 就学相談を行う事で、就学後の生活の仕方が詳しく分かり、安心される保護者が多かった。

2) 園内での情報交換や情報の集約などを行い、職員間の意思統一に努める。

計画と実践

- (ア) 各クラスで個別に配慮が必要な子どもについての記録を作成し、その子どもの姿に基づいた月ごとの目標を決め、個別の対応を行った。
- (イ) 毎月「コーディネーター会議」を実施し、その子どもたちの集団生活での様子や対応についての情報交換を職員間で行ない、毎月の職員会議で全職員に伝え、意思統一を図った。また、他に配慮の必要な子どもについての情報共有も行き、職員全体で見守る対応を確認した。

評価と改善の課題

- (ア) 毎日の記録から、その子どもの成長や課題を確認する事ができた。また、コーディネーターからも担任に対してアドバイスを行うことで子どもたちに合わせた対応を行う事ができた。引き続き、個別配慮が必要な子どもの記録を通して、成長や課題を担任と確認し合いながら配慮を進める。
- (イ) 「コーディネーター会議」を行うことで、子どもたちを見る視点や対応を職員間で統一する事ができた。また、クラス担任だけでなく全職員が子どもたちの様子から気になる行動に気づき、様子を観察したりクラス会議やコーディネーター会議で報告したりする事で発達支援センター巡回時に、相談へと繋げることができた。引き続き、対応の統一を図り、職員間に温度差がないようにする。

令和4年度 障がい児保育事業

* 発達コーディネーター職員を配置し、宗像市発達支援センターと連携を継続している。

* 療育手帳について

療育手帳はいくつかの検査を受け、その結果を統合して決定される。

知能指数が指標対象になる。

* ランクについて A1・A2・A3 (重度性は数字が少ない方が重度)

B1・B2

* ランクのA・Bの該当者については「保育所障がい児保育事業補助金」を申請することができる。

1. 発達コーディネーター 活動計画と実践・評価と改善の課題

《発達コーディネーター会議内容》

4月	5月	6月
(14) 1. 各クラスより 2. 担当より	(20) 1. 各クラスより 2. 担当より	(17) 1. 各クラスより 2. 担当より 巡回相談について
7月	8月	9月
(22) 1. 各クラスより 巡回相談の報告 2. 担当より	(19) 1. 各クラスより 2. 担当より 巡回相談について	(15) 1. 各クラスより 2. 担当より
10月	11月	12月
(20) 1. 各クラスより 巡回相談の報告 2. 担当より	(18) 1. 各クラスより 2. 担当より	(16) 1. 各クラスより 2. 担当より
1月	2月	3月
(20) 1. 各クラスより 2. 担当より	(17) 1. 各クラスより 2. 担当より	(10) 1. 各クラスより 2. 担当より

1. 年間目標

- 1) 各専門機関との連携を図る。
- 2) 園内での情報交換や情報の集約などを行い、職員間の意思統一に努める。

2. 日常生活の計画・実践と評価・改善の課題

- 1) 各専門機関との連携を図る。

計画と実践

- (ア) 年2回(5月、9月)発達支援センターの巡回相談が行われた。
- (イ) 保護者の意向で8名が発達検査を受けた。
- (ウ) 市主催の年中健診が10月に行われた。
- (エ) 配慮を必要として挙げている子どもたちの保護者へ保育者から日常の様子を伝える中で、就学相談について紹介したり、保護者からの相談により、機関へ繋げるようにしたりした。

評価と改善の課題

- (ア) 発達支援センターの巡回相談を通して、配慮が必要な子に対しての情報交換や専門機関との連携を取ることができた。今後も、引き続き集団生活での関わり方や活動への促し方、保護者への対応など具体的なアドバイスを頂きながら保育を進める。
- (イ) 発達検査の結果を基に本児の苦手な分野や得意な分野をより細かく把握し、個別に合った対応を行う事ができた。
- (ウ) 健診後に担任とセンターの方で個別配慮が必要な子どもについての話を行った。センターの方からアドバイスを頂く事により、園内での対応に繋げることができた。また、関係機関に繋げる事もできた。
- (エ) 就学相談を行う事で、就学後の生活の仕方が詳しく分かり、安心される保護者が多かった。

- 2) 園内での情報交換や情報の集約などを行い、職員間の意思統一に努める。

計画と実践

- (ア) 各クラスで個別に配慮が必要な子どもについての記録を作成し、その子どもの姿に基づいた月ごとの目標を決め、個別の対応を行った。
- (イ) 毎月「コーディネーター会議」を実施し、その子どもたちの集団生活での様子や対応についての情報交換を職員間で行ない、毎月の職員会議で全職員に伝え、意思統一を図った。また、他に配慮の必要な子どもについての情報共有もを行い、職員全体で見守る対応を確認した。

評価と改善の課題

- (ア) 毎日の記録から、その子どもの成長や課題を確認する事ができた。また、コーディネーターからも担任に対してアドバイスを行うことで子どもたちに合わせた対応を行う事ができた。引き続き、個別配慮が必要な子どもの記録を通して、成長や課題を担任と確認し合いながら配慮を進める。
- (イ) 「コーディネーター会議」を行うことで、子どもたちを見る視点や対応を職員間で統一する事ができた。また、クラス担任だけでなく全職員が子どもたちの様子から気になる行動に気づき、様子を観察したりクラス会議やコーディネーター会議で報告したりする事で発達支援センター巡回時に、相談へと繋げることができた。引き続き、対応の統一を図り、職員間に温度差がないようにする。